

令和5年度 第3四半期

退職等年金給付組合積立金 運用状況



目次

- ・ 令和5年度 第3四半期運用実績（概要） P 2
- ・ 令和5年度 第3四半期市場環境（その1） P 3
- ・ 令和5年度 第3四半期市場環境（その2） P 4
- ・ 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合 P 5
- ・ 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り P 6
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り P 7
- ・ 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 P 8
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 P 9
- ・ 令和5年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額 P 10
- ・ 資産運用に関する専門用語の解説 P 11

令和5年度 第3四半期運用実績（概要）

運用利回り + 0.11% ※実現収益率
(第3四半期)

運用収益額 + 1.12億円 ※実現収益額
(第3四半期)

運用資産残高 1,011億円
(第3四半期末) (簿価ベース)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

令和5年度 第3四半期市場環境（その1）

【各市場の動き（令和5年10月～令和5年12月）】

- 国内債券：10年国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。FRB（米連邦準備理事会）が、9月FOMC（米連邦公開市場委員会）で、年内の追加利上げを示唆すると、米国長期金利は上昇。連られて国内長期金利も上昇（債券価格は下落）しました。10月末には日銀のYCC（イールドカーブ・コントロール）政策の再柔軟化決定もありましたが、11月FOMCで利上げが見送られ、利上げ終了観測が台頭すると、米国長期金利に連れられ利回りは低下（債券価格は上昇）しました。
- 国内株式：国内株式は上昇しました。9月、米国長期金利が上昇すると日米で株価は下落しました。10月、イスラエル情勢への警戒感が下落に輪をかけましたが、11月、米国で利上げ終了観測から株価が反転すると、米株への連動や、日銀の政策修正に対する慎重姿勢への安心感から上昇に転じました。
- 外国債券：米国10年国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。9月、FOMCによる金融引き締め観測により、利回りは上昇し、一時5%台に達しましたが、11月、利上げ終了観測が漂うと利回りは低下し、期初を下回る3%台となりました。ドイツ10年国債利回りは低下（債券価格は上昇）しました。9月のECB（欧州中央銀行）の利上げや米国長期金利の上昇で、2.9%台まで上昇した利回りは、米国の利上げ終了観測に加え、域内インフレ率の鈍化、景気後退懸念から低下に転じ、一時2%を割り込む水準となりました。
- 外国株式：米国株式は上昇しました。金融引き締め長期化観測や中東紛争の勃発で値を下げましたが、11月FOMC後の、利上げ終了観測から反転、12月FOMCで来年3回の利下げが示唆されると、NYダウは約2年ぶりに過去最高値を更新しました。欧州株式は上昇しました。最大の貿易相手国である中国経済の低迷や、域内景気の後退懸念から株価は下落する局面もありましたが、インフレ率の鈍化、ECBの利上げ終了観測から上昇しました。
- 外国為替：ドル/円はドル安・円高となりました。FRBの引き締め長期化姿勢、中東紛争の勃発等から、一時リスク回避的なドル買が見られましたが、米国の利上げ終了観測からドル高修正に転じ、期末にかけては日米金利差縮小の思惑等から、大幅なドル安・円高となりました。ユーロ/円はユーロ安・円高となりました。期初のECBの利上げは最終局面との観測が、域内インフレ率の鈍化や景気後退懸念を背景に、利上げ終了観測へと変化していく過程で、ドル同様にユーロ高修正に転じ、期末にかけてユーロ安・円高が進展しました。

○ ベンチマーク収益率

	令和5年9月末～ 令和5年12月末
<国内債券> NOMURA-BPI総合	0.89%
<国内株式> TOPIX（配当込み）	2.04%
<外国債券> FTSE世界国債インデックス （除く日本、中国、ヘッジなし・円ベース）	2.56%
<外国株式> MSCI ACWI （除く日本、円ベース、配当込み）	5.17%

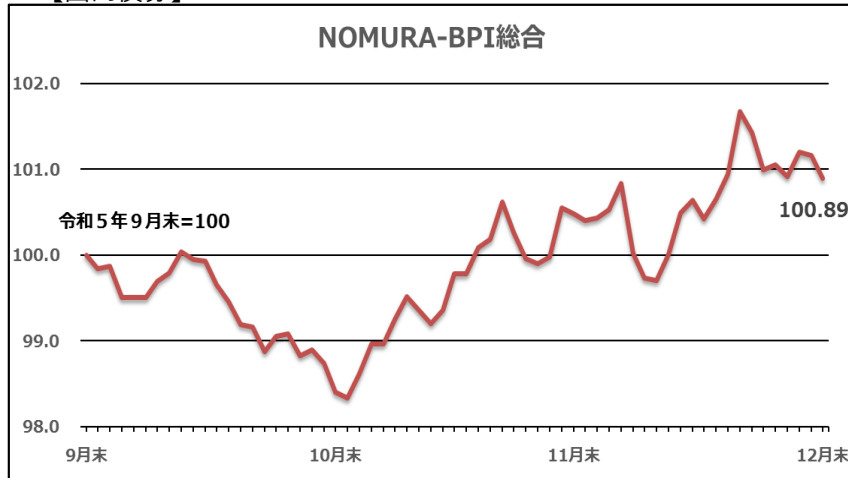
○ 参考指標

		令和5年9月末	令和5年10月末	令和5年11月末	令和5年12月末
国内債券	新発10年国債利回り（%）	0.765	0.947	0.672	0.614
国内株式	TOPIX（ポイント）	2,323.39	2,253.72	2,374.93	2,366.39
	日経平均株価（円）	31,857.62	30,858.85	33,486.89	33,464.17
外国債券	米国10年国債利回り（%）	4.571	4.931	4.326	3.879
	ドイツ10年国債利回り（%）	2.839	2.806	2.447	2.024
外国株式	NYダウ（ドル）	33,507.50	33,052.87	35,950.89	37,689.54
	ドイツDAX（ポイント）	15,386.58	14,810.34	16,215.43	16,751.64
外国為替	ドル/円（円）	149.37	151.68	148.20	141.04
	ユーロ/円（円）	157.95	160.41	161.37	155.72

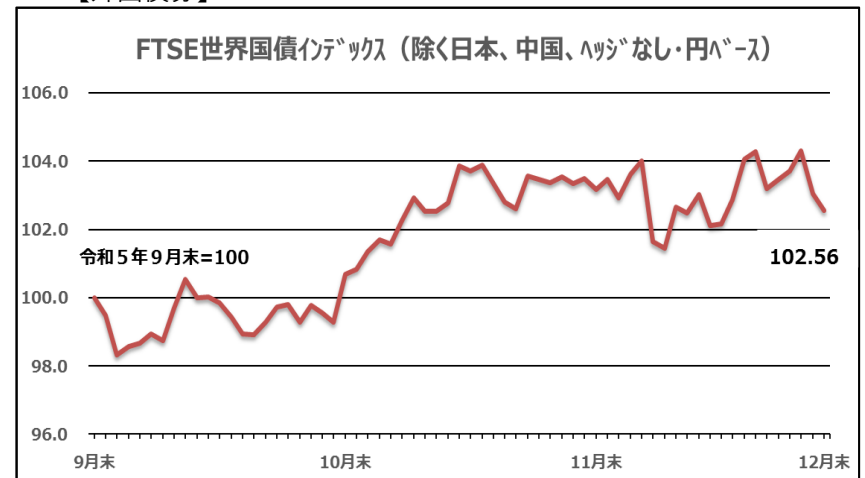
令和5年度 第3四半期市場環境(その2)

ベンチマークインデックスの推移 (令和5年度第3四半期) ※令和5年9月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

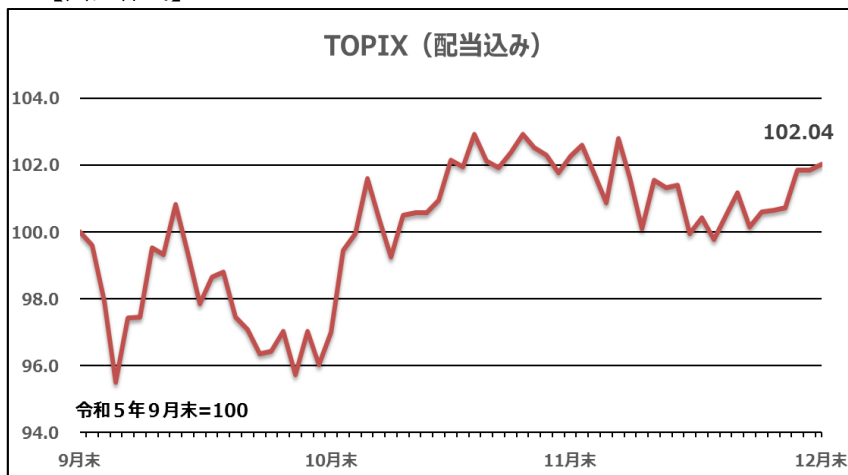
【国内債券】



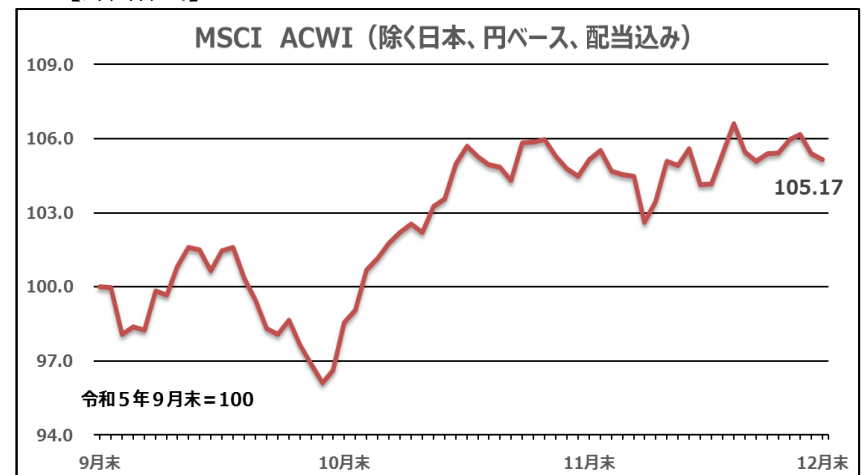
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】

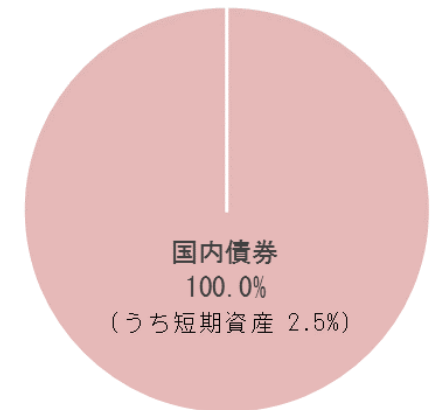


令和5年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

	令和4年度	令和5年度				基本 ポートフォリオ
	年度末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末	
国内債券	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0
うち短期資産	(2.0)	(1.9)	(1.3)	(2.5)	—	
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	—	100.0

第3四半期末 運用資産別の構成割合



- (注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。
(注2) 資産構成割合は簿価ベースの数値です。
(注3) 記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。
(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。
(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

令和5年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

- 令和5年度第3四半期の実現収益率は、0.11%となりました。
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：%)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.10	0.11	0.11	—	0.32
国内債券	0.10	0.11	0.11	—	0.32
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)		(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.79	▲3.32	1.14	—	▲1.44

- (注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。
 (注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
 (注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。
 (注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	0.09	0.09	0.10	0.37
国内債券	0.09	0.09	0.09	0.10	0.37
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	▲1.44	▲0.92	▲2.90	2.60	▲2.51

令和5年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

- 令和5年度第3四半期の実現収益額は、1.12億円となりました。
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：億円)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.93	1.03	1.12	—	3.08
国内債券	0.93	1.03	1.12	—	3.08
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	—	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和5年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	7.01	▲30.92	10.58	—	▲13.33

- (注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
 (注2) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。
 (注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
 (注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.69	0.74	0.80	0.87	3.09
国内債券	0.69	0.74	0.80	0.87	3.09
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	▲11.34	▲7.44	▲24.20	21.94	▲21.05

令和5年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額

(単位：億円)

	令和5年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	938	912	▲25	972	914	▲58	1,011	963	▲48	—	—	—
うち短期資産	(18)	(18)	(0)	(13)	(13)	(0)	(25)	(25)	(0)	—	—	—
合計	938	912	▲25	972	914	▲58	1,011	963	▲48	—	—	—

(単位：億円)

	令和4年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	815	795	▲20	847	819	▲28	885	832	▲53	909	877	▲32
うち短期資産	(21)	(21)	(0)	(12)	(12)	(0)	(28)	(28)	(0)	(18)	(18)	(0)
合計	815	795	▲20	847	819	▲28	885	832	▲53	909	877	▲32

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。

(注3) 上記数値(令和5年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

資産運用に関する専門用語の解説

- 実現収益額
(計算式)
実現収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減 (当期末未収収益 - 前期末未収収益)
- 実現収益率
(計算式)
実現収益率 = 実現収益額 ÷ 簿価平均残高
- 総合収益額
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。
(計算式)
総合収益額 = 実現収益額 + 評価損益増減 (当期末評価損益 - 前期末評価損益)
- 修正総合収益率
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。
(計算式)
修正総合収益率 = 総合収益額 / (簿価平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益)
- 格付
債券の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。
一般に BBB 格までが投資適格とされ、BB 格以下になると信用リスクが高くなるとされています。